

相撲絵展

—芝村コレクション—



令和8年4月11日(土)～6月7日(日)

企画展示室2

江戸時代、大名から庶民まで熱狂した相撲。当時の花形の力士など、相撲絵が浮世絵の一ジャンルとして制作されました。当館所蔵の芝村コレクションから、さまざまな相撲絵をお楽しみください。

作者	作品名	作品名(よみ)	制作年代	版元・寸法・員数
歌川国貞(二代目)	横綱土俵入之図 雲龍久吉	よこづなどひょういりのず うんりゅうひささち	文久元(1861)年	大黒屋平吉 大判
歌川国貞(二代目)	阿弥 千羽ヶ嶽兵右工門	あしゅう ちばがたけひょうえもん	慶応2(1866)年	伊勢屋鉄次郎 大判
歌川豊国(三代目)	東関庄助	あずまぜきしょうすけ	文化8(1811) ～文化11(1814)年	和泉屋市兵衛 大判
歌川豊国(三代目)	秀ノ山 雷五郎 横綱土俵入ノ図	ひでのやま らいごろう よこづなどひょういりのず	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	藤岡屋慶次郎 大判
歌川豊国(三代目)	荒熊五郎治	あらくまごろうじ	文化8(1811) ～文化11(1814)年	山本屋平吉 大判
歌川芳盛(初代)	皆瀬川大八郎	みなせがわだいはちろう	安政6(1859)年	大黒屋平吉 大判
歌川豊国(三代目)	雷 黒岩 小柳 木村庄之助	いかずち くろいわ こやなぎ きむらじょうのすけ	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	藤岡屋慶次郎 大判3枚続
歌川国貞(二代目)	歓進大相撲八景 稽古之図	かんじんおおずもうはっけい けいこのず	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	蔦屋吉蔵 大判3枚続
歌川国輝(二代目)	伊勢ノ海 境川 象ヶ鼻 式守伊之助	いせのうみ さかいがわ ぞうがはな しきもりいのすけ	明治4(1871)年	若狭屋与市 大判3枚続
歌川国輝(二代目)	横綱土俵入之図 不知火光右工門	よこづなどひょういりのず しらぬいみつえもん	慶応3(1867)年	丸屋甚八 大判3枚続
歌川国貞(二代目)	不知火光右工門	しらぬいみつえもん	文久4(1864)年	大黒屋平吉 大判
歌川国貞(二代目)	鬼面山谷五郎	きめんざんたにごろう	文久2(1862)年	大黒屋平吉 大判
歌川国芳	六ツヶ峰岩之助	むつがみねいわのすけ	嘉永5(1852)年	古賀屋勝五郎 大判
歌川豊国(三代目)	一力長五郎	いちりきちようごろう	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	山本屋平吉 大判
歌川国貞(二代目)	出釈迦山峰吉	しゅしゃかやまみねきち	文久元(1861)年	大黒屋平吉 大判
歌川豊国(三代目)	黒岩重太郎	くろいわじゅうたろう	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	山本屋平吉 大判
歌川豊国(三代目)	猪王山森右工門	いおうざんもりえもん	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	山本屋平吉 大判
歌川国貞(二代目)	横綱土俵入之図 不知火光右工門	よこづなどひょういりのず しらぬいみつえもん	元治2(1865)年	大黒屋平吉 大判
歌川国貞(二代目)	阿州 鬼面山谷五郎 横綱 土俵入之図	あしゅう きめんざんたにごろう よこづな どひょういりのず	安政6(1859)年	大黒屋平吉 大判
歌川国芳	六ツヶ峰岩之助	むつがみねいわのすけ	嘉永6(1853)年	山口屋藤兵衛 大判

作者	作品名	作品名(よみ)	制作年代	版元・寸法・員数
歌川豊国(三代目)	一力長五郎	いちりきちようごろう	安政元(1854)年	佐野屋喜兵衛 大判
歌川国貞(二代目)	出釈迦山峰吉	しゅしゃかやまみねきち	文久2(1862)年	大黒屋平吉 大判
歌川豊国(三代目)	黒岩重太郎	くろいわじゅうたろう	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	藤岡屋慶次郎 大判
歌川豊国(三代目)	猪王山森右工門	いおうざんもりえもん	安政元(1854)年	若狭屋与市 大判
歌川国輝(二代目)	伊勢ヶ海稽古場繁栄之図	いせがうみけいこばはんえいのず	明治3(1870)年	大黒屋平吉 大判3枚続
歌川国久(二代目)	雲龍久吉 横綱土俵入之図	うんりゅうひさきち よこづなどひょういりのず	文久元(1861)年	太田屋多吉 大判
歌川豊国(三代目)	相撲繁栄溜入の図 東ノ方 稲川	すもうはんえいたまりいれのず ひがしのかた いながわ	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	伊場屋仙三郎 大判
歌川豊国(三代目)	相撲繁栄溜入の図 東ノ方 常山	すもうはんえいたまりいれのず ひがしのかた つねのやま	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	伊場屋仙三郎 大判
歌川豊国(三代目)	相撲繁栄溜入の図 東ノ方 黒岩	すもうはんえいたまりいれのず ひがしのかた くろいわ	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	伊場屋仙三郎 大判
歌川国貞(二代目)	関取大井川越	せきとりおおいがわごえ	文久2(1862)年	大黒屋平吉 大判3枚続
歌川豊国(三代目)	生月鯨太左工門	いきつきげいたざえもん	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	加賀屋勝五郎 中判3枚続
歌川豊国(三代目)	相撲繁栄溜入の図 西ノ方 六ツヶ峰	すもうはんえいたまりいれのず にしのかた むつがみね	弘化4(1847) ～嘉永5(1852)年	林屋庄五郎 大判
歌川国貞(二代目)	劔山 不知火	つるぎやま しらぬい	天保14(1843) ～弘化4(1847)年	山本屋平吉 大判3枚続

作者紹介

歌川豊国(三代目)	天明6(1786)年～元治元(1864)年	歌川豊国(初代)に師事しました。別号を「国貞」。似顔絵(役者絵、美人画など)の国貞、風景画の広重、武者絵の国芳とともに江戸時代末を代表する浮世絵師です。また、浮世絵師で最も作品を残した人物です。
歌川国芳	寛政9(1797)年～文久元(1861)年	歌川豊国(初代)に師事しました。別号は「国芳」。「通俗水滸伝豪傑百八之壹個」のシリーズで人気絵師になりました。似顔絵の国貞、風景画の広重と共に江戸時代末を代表する浮世絵師です。また、猫好きであったことも有名です。
歌川国貞(二代目)	文政6(1823)年～明治13(1880)年	歌川豊国(三代目)に師事しました。師の長女と結婚し婿養子となり、二代目国貞を襲名しました。師の門弟として貞秀・国周と並び、影響力を持った人物で、役者絵や美人画を得意としました。
歌川国輝(二代目)	天保元(1830)年～明治7(1874)年	歌川豊国(三代目)に師事しました。役者絵が多く描いた人物です。明治時代になると、「東京名所絵」など文明開化を題材とした開化絵も描いています。
歌川芳盛(初代)	天保元(1830)年～明治18(1885)年	歌川国芳に師事しました。武者絵・時事絵・時局を風刺した合戦絵を得意としました。その他にも横浜の街の様子、来日した外国人の様子を描いた横浜絵や花鳥画も描いています。
歌川国久(二代目)	天保3(1832)年～明治24(1891)年	歌川豊国(三代目)に師事しました。師の四女と結婚し、婿養子となりました。横浜絵や役者絵を描いた人物です。